

「和」川柳社会報 六七三

定例会 二〇一八年一〇月二三日(月)

定例会 於：金沢市金石町



「テントにはテントの力 明日拓く」



東京の《乱 鬼龍さん》は著名な諷詩川柳作家。先月の演劇「T・AKIRA」の観劇に仲間と一緒に参加。高松の鶴彬墓碑や資料室、卯辰山も訪れました。レイバーネットを舞台に川柳を広め、東京・多摩病院跡に鶴彬の記念碑を作る運動『東京鶴彬顕彰会』の中心メンバーです。会報に寄稿していただいた。6頁に紹介。

10月 秀句

年金を軍事に回す国づくり

中野林

10月23日、安倍首相は明治維新150年記念式典を主催した。敗戦からの70年を経ての今。国は膨大な借金を作り、大企業は太り、民は細る。根幹にアメリカ強への属国化。そして財源は年金を細らせる姑息。(周)

**お知らせ**

11月例会	11月26日(月)
投稿締切	24日(土)
課題「味」	3句以内
自由吟	5句以内

自選句、自解筆もぜひよろしく。

川柳互選	2
課題吟「実」	2
自由吟	3
自選一連作	4
寄稿 乱鬼龍	6
川柳あれこれ情報	7
叔父・岡田一吐の思い出	6
岡田仁	9
『川柳にみる戦時下の世相』	10
文化の日・新聞の社説から	12
「在ソ三年 生と死のドラマ」	16
報告・後記	16

10月の  
川柳互選

◆ 課題吟 「実」

(互選) 一人3句以内吐

- 我が家では新嘗祭は待たないが  
1 実験のこつこつ作業が拓く道 立東爺 一角
- 芋届き戦後の話思い出し  
1 正論だ風など読んでないらしい ダン吉 一角
- 加計理事長事実話さずとぼけ顔  
1 実らない汗もあるのだドラマだな 徹乗 一角
- 世界一辺野古の基地と自慢する  
1 実のない総理代表格は安倍 大峰 一角
- 妹に新米もらった兼業の  
1 議員には 資金パーティで 花も実も 広助 一角
- 復帰後も居座る米兵の屁の臭さ  
2 実らない果樹は根こそぎ斬り倒す 亀公子 一角
- 岩盤に事実を埋める安倍政治  
2 立東爺 一角

- 増税は 実のりあるのか 欺まんなり  
2 真実は 遠のき嘘で 国滅び 広助 一角
- 一強の 実害近し 消費税 広助 一角
- 翁長知事逝くでつかい団結実らせる  
3 実を結べ安倍アメリカを追い出す日 大峰 一角
- 実りもせず<sup>こっぺ</sup>に頭を上げたエライ人  
4 現実を見ない戦前ノスタルジー 未知子 一角
- 沖繩の心実をつけさあ行くぞ  
4 生産性合わぬ実りへ光る鎌 徹乗 一角
- カチャーシー野次も民意を実証し  
4 実のり無き「右向け右」の 改造劇 立東爺 一角
- 真実と虚偽の境のない官邸  
4 責任、実行、そして日本をぐちゃぐちゃに 白真弓 一角
- 実弾で餌付けしてから獲る漁法  
5 実の名は「安倍捏造」と申します 徹乗 一角
- 731ヒロシマフクシマ実験台  
5 改憲の大罪恥ぬ実行犯 亀公子 一角
- 6 6 6 6 6

◆自由吟（互選）一人5句以内吐

1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
安倍負ける翁長デニーの根性	恥を知られまたも出て来た不正施工	豊洲出来日本中のゴミ溜めか	民意無視 自公政権 ザ・チェンジへ	牛たちの涙に映るポチの顔	官僚の 腐敗は政府 元を断て	言論を消す管理者が安倍批判	借金の一十兆円安倍払え	大企業女子採用は後回し	経団連就活ルール廃止とな	もうあかん思った時に道消える	言い負けたでも納得はしていない
和子	未知子	大峰	宏	林	広助	徹乗	和子	一角	一角	ダン吉	ダン吉

3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
隊員に富国強兵策を説く	子どもたち大人の矯育して下さい	一滴の水にも飢える人の群れ	返されることは覚悟で石投げる	旭日旗 日の丸よりも 威厳持つ	一〇パーに財界庶民攻防戦	あり得るよ ブラックアウトで 再稼働	先人の力うごめく沖繩に	革命だ！ 産めよ殖やせよ人づくり	キャッシュバック議案提出順序決め	世に知れた安倍のウソつき付き合わぬ	戦争を しない・させない 九条なり	「革命」と唱える政権鎮座する	ブータンの棚田を壊す侵略者	ワイロまで出したが五輪が足を出す	半定歩外国人と女には	もう一度私に賭ける手を上げる							
林	未知子	亀公子	ダン吉	広助	白真弓	宏	和子	徹乗	白真弓	和子	宏	徹乗	白真弓	大峰	一角	ダン吉							

- |   |                   |     |
|---|-------------------|-----|
| 3 | 安倍一座 国民受けの 演技だけ   | 広助  |
| 3 | 沖縄の火を噴くマグマ安倍退治    | 和子  |
| 3 | 旭日旗掲げ出て行く奈落道      | 立東爺 |
| 3 | モリ・カケも 改ざん疑惑 やぶの中 | 宏   |
| 3 | ろくでなし細工・捏造・猿芝居    | 林   |
| 3 | 靖国は 政治天皇 下に見る     | 広助  |
| 3 | 新基地の 虚偽・強行の 怒る島   | 宏   |
| 3 | 入学と同時に男青田刈り       | 一角  |
| 4 | 生産性革命弱者に寄り添えず     | 徹乗  |
| 4 | 人災ばかり美田も村も押し流し    | 大峰  |
| 4 | 老骨にムチ 働けと言う改革     | 立東爺 |
| 4 | 生産性合わぬと人も切り刻む     | 立東爺 |
| 4 | 七十五まで働け！ 民に鞭を打つ   | 徹乗  |
| 4 | 日々拡散 改ざん隠蔽底知れず    | 立東爺 |
| 4 | 軽減税率で騙す 消費税       | 広助  |
| 5 | トラクター壊れて農家幕を閉じ    | 白真弓 |
| 5 | 天皇は慰霊 総理は外遊の日に追われ | 亀公子 |

今月の  
自選・連作

◆ 鬪病句 白真弓

- |   |                                |     |
|---|--------------------------------|-----|
| 5 | 隠蔽の術で横行する不正                    | 亀公子 |
| 5 | 道遙かそれでも今日の一步から                 | ダン吉 |
| 6 | 九条の国に突っ込むオスプレイ                 | 林   |
| 7 | 年金を軍事に回す国づくり                   | 林   |
| 6 | 6カ月ぶりの抜け毛にご挨拶                  |     |
|   | ニセ医者に用心しると声しきり                 |     |
|   | 病忘れ大食いしてる秋実る                   |     |
|   | 脱毛の頭晒して颯爽と                     |     |
|   | 1句目：いったん全部抜けたので、全く抜け毛がなかったのです。 |     |
|   | 4句目：ホームで見かけた女性。連れの方に           |     |

「もう開き直ってる」と。清々しく、  
自分を少し反省した。  
(白真弓さま、ご自愛下さい。編集子)

◆自選句 中野林

病院の窓口怖い高齢者  
限りなくゼロに近づく年金額

生活の保護費が削られ暮らせない

子どもらに重荷背負わす日本国

翁長氏の命の炎勝利呼ぶ

ウチナンチュ米従属に待ったかけ

沖縄選嵐のあとの大勝利

あちこちで違憲重ねる戦争法

列島に軍靴響かすアベ三選

9条に軍靴で上がる自衛隊

◆福島を訪ねて 松和子

落ちて行く安倍と共に東電も

ひどすぎる新築の家核のゴミ  
なげけども仮設の暮らしいつまでも  
九年前国は福島知っていた

◆自選句 能沢栄

沖繩の民意みごとな三連勝

カチャーシー踊るデニー氏カッコよく

辺野古だ！ とそれでも言い張る官房長

ポーズだけ面会をする鉄面皮

人の血も道理も通わぬ現政権

民意無視表情もないロボットか

ロボットにも心はあるよ最近ほ



【速報】11月7日の米国議会の中間選挙は、下院での野党民主党が過半数となり、歯止めがかかった。大きな特徴は若い世代が反トランプに動いたこと。日本と大きな違い。

乱鬼龍  
Ran Kiryu



## 寄稿

この時代状況の中で、  
川柳は何を、  
どう吐くべきなのか

乱 鬼 龍

様々な意味で、この国と、世界の劣化、崩壊は、そのスピードを、加速してきていると思う。

そのような、危機を深めている時代状況の中で、「川柳」もまた、その本質を、存在意義を、より深く問われていると思う。

そうした立場に、厳然と立ちとうとする時、今日の「川柳」は、どれほど、その意味と意義を、表現しているか、いえるだろうかと思う。

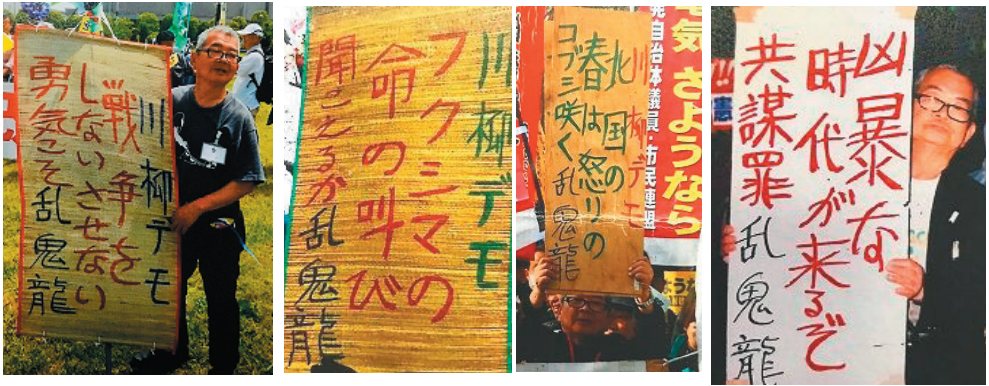
「文は人なり」というが、「句もまた人なり」といえる。一句、一句の、その水準が問われているということは、その作者の水準、世界観、認識の度合、等々の全てがまた問われているということでもある。

私たちは、その意味で、私たちの、現在の認識を、もつと、もつと変える。そのための努力をしなければならぬと思う。

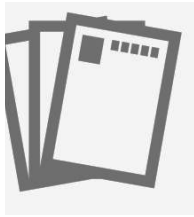
句会がマンネリだということは、そこに集う人たちが、マンネリだということであり、自ずと句の水準もまた、そのようなものでしかないということだ。

川柳を向上させていく、ということは、私たち自身を向上させていくということ。そのための努力を、一生けんめい努めるということに他ならないと思う。

(2018 10/23 記)



乱 鬼龍さんからデモや集会に参加した時の写真を  
いただきました。  
戦争をしないさせない勇氣こそ / フクシマの命の叫び  
聞こえるか / 北国の春は怒りのコブシ咲く / 凶暴な時  
代が来るぞ共謀罪 / 美ら海をこわす政治が国こわす



**鶴彬没後80年！  
大阪では12月  
鶴彬の生涯を描いた  
演劇が上演されます。**



劇団きづがわ創立 55 周年記念・第 77 回公演  
『鶴彬 暁を抱いて』  
12月15日(土)/16日(日) (後援：日本川柳協会)  
前売り：一般 3000 円 (65 歳以上 2500 円) /U30、障害者 2000 円 (当日 +500 円)  
連絡：TEL. & FAX.06-6551-3481  
《携帯》090-7359-7335

今年は、鶴彬・獄死八〇年。この演劇は古橋道夫原作の同名小説をもとに「川柳をたたかい抜いた鶴彬の半生を劇化したものです。

岡田一杜さんの甥御さん・岡田仁さん  
からおたよりがありました。

## 叔父（岡田一杜）の思い出

### 「和川柳」の根本思想は 叔父そのもの

前略 故人との思い出のことですが、なにせ古い昔の事で記憶も定かでないところではあります。

叔父とは、私が小学校の頃五年程一緒に過ごしたと思います。当時は戦後の混乱期でとてもまともな生活状態ではなかったようでした。

叔父は、三菱造船長崎造船所で組合運動に従事し多方面に渡ってオルグ活動をしていたようです。あの頃は遊ぶ場所も物もお金もなかったもので、長崎市周辺の山々（低山 五〇〇m程）に連れていってしまいました。ご存じとは思いますが、長崎

は三方を山に囲まれ、ただ一方に海が入江のよう  
に開けているところではあります。

叔父は、山のうえから荒廃した長崎の街並みをよくスケッチしていたのを覚えています。その他にも、一度に言い表せない程の知識を多く受けていたと思います。

叔父が長崎を去ったのは、レッドパージによる失職と公権による監視の為だときいております。叔父は博識多才な人でした。その頃に受けた様々な事柄の影響は多分におおきかったものとおもいます。その様な訳で、「和川柳」の根本思想は叔父そのものであると思っております。

今後とも、微力ではございますがお役に立てればと思っておりますので、よろしく御願いたします。末筆ながら、皆様方によりしくお伝えくださいますようお願い申し上げます。

草々

岡田 仁



# 『川柳にみる戦時下の世相』

## 兵士は戦争を川柳でどう描いたか

前号でも紹介した『川柳にみる戦時下の世相』（高崎隆治）には、大陸に送られた兵士の川柳も載せている。多数の川柳誌も発行され戦地から投句していた。作者はその後生きられたのだろうか。

### ◆戦場の兵士が詠んだ川柳

塹壕の夢は稲穂へ鎌を取り 川崎洋々

兵士は農民だったのだろう。行軍中で田畑を見る。塹壕でまどろむと故郷を思う。

草もない木もない土に立つ墓標 川上為男

激戦地では墓標もなく何万の兵士が野ざらしとなった。

交替の歩哨たがい未だ無事 土佐野安気良

両軍が対峙する最前線。交替の時に無事を確認する。

目が醒めて生きてる弾丸の音を聴き 岩谷鉢朗

最前線。一瞬の眠り。弾丸が飛ぶ音で生きているのを確認する

大陸の暑さ華氏にて知らすなり 徳永重曹

「我が軍は炎熱百三十度の中で…」と手紙に書いて送ったのだ。摂氏では五四度。

落書きも支那は一首の詩をしるし 石原青竜刀

日本の兵隊が中国に行つて驚いたのが落書き。どれも見事な筆跡の詩であったという。石原

青竜刀は戦後、「諷刺人同盟」を主宰。「川柳人」や「和川柳社」の同人でもあった。

城壁史血でいろどつて旗が立ち 田中青嵐

日本と違い中国の城壁は町を守るためのもの。城壁に旗が立つのは町を占領した証。南京は

大虐殺までにエスカレートした。

打網の手ごたえごり首が出る 小宮山清峨

川で投網を引いた。銃弾ではなく首が切り落とされていたのだ。

この土のどこまで雨の路だやら 大多和一雄

雨が降る大陸。道などない。砲車などと一緒  
に歩く。三〇kgの軍装で、一日、歩兵で10キロ、  
砲兵は1キロも進まないという。

敵味方同じ虫を聴いて寝る 双車

敵味方が対峙して緊張しながら塹壕の中で夜  
を過ごす。

軍靴脱ぎすてたくなって山つづく 津森郷思

延々と続く山中行軍。日本の比ではない。中  
国大陸は広い。

馬の背に砲身兵の背に車輪 塩島清雨

過酷な風景。命令には逆らえない。兵士の命  
のなんと軽いことか。

何もかも飛んで生命が一つ無事 真木浪里

南方の戦場での句。塹壕で空襲を受けた後の  
静寂。唯一人生き残った。

(解説は、編集子)

## 十一月三日 文化の日 ワイマールの教訓

新聞の  
社説から

周立東爺

十一月三日は文化の日で、終戦翌年、現行憲法  
が公布されたのを記念している。憲法は半年の準  
備期間を置いて翌年五月三日に施行され憲法記念  
の祝日である。

遡れば十一月三日は明治天皇の誕生日で戦前は  
明治節として休日であった。安倍政権は、明治改  
元一五〇年記念式典を十月二十三日に開いた。こ  
れらを意識した一般新聞の社説は次の二紙があつ  
た。東京(中日)新聞は『憲法公布の日に ワイマ  
ールの教訓とは』、宮崎日日新聞は『明治改元一五  
〇年』である。なかでも東京(中日)新聞の視点は  
広く深く、ドイツ史について知らぬことも多く、  
教えられた。要旨を紹介し、考える参考にしたい。

× × ×

《以下、要旨》 この日は、ドイツでワイマール憲法が誕生する契機となった事件の日であるという。第一次大戦の末期、ドイツ海軍は英国海軍に制海権を握られて、海上封鎖にあい、ドイツ北部の軍港ではもはや水兵らは厭戦的な気分になっていたという。それでも海軍司令部は大決戦を挑むつもりで攻撃命令を出した。特攻作戦である。ところが、大勢の水兵が命令を拒否してしまった。

水兵はただちに拘束され、軍法会議で死刑が予想された。緊張した空気の中、仲間の水兵らが釈放を求めた。そして、一斉に武装蜂起。「キールの反乱」と呼ばれ、この反乱の火はドイツ全域に拡大し、皇帝ウイルヘルム二世が退位しオランダに亡命。帝政ドイツが崩壊。そしてドイツ共和国が誕生した。そして新憲法成立。それが一九一九年のワイマール憲法である。

ワイマール憲法は当時、世界で最も民主主義的で、輝ける憲法として有名である。「平和主義」の

日本国憲法も今なお世界最先端をゆく、輝ける憲法だ。このワイマール憲法は如何に崩れたか。

ナチス・ドイツ下では「民族と国家防衛のため」を口実に民主的（多数決）に国家緊急法が成立し、それが乱用され、保障されているはずのさまざま自由が奪われ、ユダヤ人の大虐殺も行われた。

この緊急事態に関する条項は自民党の改憲草案にも盛り込まれ、政府が「緊急事態」を宣言すれば、憲法秩序が止まる。

× × ×

以上が東京新聞の要旨だが、さて、安倍首相が明治一五〇年祝賀、戦後総決算、憲法改正の旗を振る動きは衆参両院2/3の多数を持つ今が好機とばかりに櫻井よしこや百田尚樹など右翼文化人の旗振りをはじめ、テレビでは安倍弁護の発言をする報道関係者も多い。最近各地の自治体で公共施設で市民団体の使用拒否が続発。ご当地金沢でも例外ではない。

国会周辺では連日のように「改憲反対！ 安倍辞めろ！」の集会が続いているとのこと。川柳界からはレイバーネットの乱鬼龍さんがデモや集会で自作句を掲げる。写真を寄せていただいた。電話で檄を頂戴。「東京の一、二万の集会より全国各地で五〇

## 秋山茂 在ソ三年 生と死のドラマ

はじめに

わたしが在ソ三年に亘る抑留記を書きはじめペンを執った時、胸の奥に潜んだもう一人の私から「何を今更ら書こうというのか」という呟きがあった。然し人の思想や信条が歴史によって個々に位置づけられしかもその歴史たるや父祖の代に亘るものが一番大きな影響力を持ち「戦争か平和か」「幸福か不幸か」が夫れらの中から派生するという観点から敢

人でも一〇〇、二〇〇人の意思表示が大切」と。

東京新聞は社説の最後に「ワイマール憲法を教訓にすれば、政府が『国のため』『国民のため』というとき、実は危険な兆候なのかもしれない。」と結ぶ。



えて執筆したのである。

わたしは青少年時代「日本の夜明け」とまでいわれた明治維新の国内が騒然とした中であって国事に奔走した人たちが「勤王だ」「佐幕だ」と生命を賭

けて斗った数々の歴史に深い興味を抱き、いろいろな書物を読破し、小さい乍らわたしの内部に正義感が芽生へたという自覚を持っている。第二次世界大戦後既に三十有余年、戦争を知らない世代が国内人口の三分の二を占める今日、自由が謳歌されている反面、戦争への画策が着実に進められているのが現代国際社会であり、何時の日か若者たちの頭上に砲弾の炸裂のないことを願ひ乍らも日本国民である前に人間であるという共通の理念が生まれぬ限り残念乍ら誰も平和を保障し得ない、如何なる場合でも戦争は避けねばならぬことが理論的には理解出来ても、これを防ぎ得ない人間の弱さを持つ集団が地球であつて、その意味からも若い世代が戦争に狩り立てられた父祖の年代の歴史の一端を知ることの無意味ではなく、同時に又異国に空しく逝つた五万有余の霊も亦このことを願うのではなからうかと思いつつ、稿を重ねた次第である。

一九七九年二月 秋山茂

目次

111098765432	イ	1	第二章	第三章	第四章	第五章	第六章	第七章	第八章	第九章	第十章	
いま振り返って思う	赤い霸道	野草と茸	相剋の根	シベリアの恋花	恐怖の自然林	日独両国の捕虜と囚人	働かざる者喰うべからず	ソ連人	食と捕虜	食と捕虜	食と捕虜	食と捕虜
			入ソ	抑留	労働大隊での作業	抑留三年	紛失した水準器	再びマリタの山へ	斗いの果斃れる	待望のダモイ	シベリア余聞	
			速捕と連行									
			冬季	春季	夏季	秋季						
			気候と土壌									

## 第一章 逮捕と連行

終戦の年いかめしい満州国陸軍鐵路警護兵上尉という肩書きで三月に北支の冀東地区きとうに派遣された鉄華部隊第一營の副官だった私が奉天（今の瀋陽）鉄西地区の満鉄化学工場で旧部下数名と軍服を社員服に代へて守衛勤務中ソ連軍のゲペウに捕へられたのは昭和二十年の暮近い十一月十三日午後二時頃であった。軍用トラックに乗せられ浪速い通りを走る車上から眺めた時、従前は見られなかったこの附近への満人の進出が目立ち騒然とした空気の中に、時々ソ連軍のジープやトラックが疾走していた。

見馴れた街路樹の落葉が風に吹かれて右に左に舗道上を転がるように舞い、歩道を行き交う人を見れば中国人や朝鮮人は平常と変わらぬ速度で自由に悠々と歩いているのが一目で日本人と知れる人達は俯き加減に頭を垂れ伏目勝ちにせかせかと彼等の合間を縫うように歩いており、敗戦国民の惨めさ辛さ

が改めて胸に響いたし、まだまだ日本人の女や子供が自由に外に出歩けるといふ状態ではなかった。

私は駅から浪速通りを一直線に五、六百メートル走った処に在るロータリーの旧大和警察署前で下車させられ、一室で身体検査をして財布や腕時計を取上げられ、預り証は見せられたものの、これらの品物は再び私の手元に返っては来なかった。私は薄暗い地下留置場の一房に入ったが既に先客が五名程居り、何れも日本軍の将校であることは軍服の襟に未だ階級章が空しく光っていたから一目で知れたが、連中は不安気に前の通路に小銃を持って動哨している保安員の満人に気兼ねして小声でぼそぼそ話し合っていた。私が座を占めた隣りに顎髭の剃り跡の濃い一人の中尉が居たが彼は「秋場」といい蘇家屯飛行隊の整備将校であると自ら私に名乗ったので、私も鉄華部隊第一營の元副官だとだけ知らしておいた。珍しい留置場風景にも次第に馴れはじめたが、時々外部が喧しくなりあわただしい足音が聞こえる

のは又何人かの日本人が捕らえられて来たのだろうが、誰であるかは分からない。私と一緒に捕らえられた「能沢四郎はどうしたろう」と私には気掛かりであった。彼は北支に於ける八路军との戦闘で腕に貫通銃創を受け未だ傷がなおっていないため捕らえられたのである。

便器が抑留場の中にあるため嘔吐を催しそうな臭気には閉口したが時間が経つにつれてこれにもだんだん馴れて左程の苦痛を感じないようになって来た。

夕食は高粱飯に中国式の大根の漬物二切れでとても喰べられる代物ではないが、これから先のことを考えやつと半分程呑み込んだ。この秋場中尉は将来団の一員としてわれわれと共にシベリア送りとなった人で、入ソした翌年の六月イルフック郊外のアイエンオガラドクターで一月余り私達の中隊長だったこともあったが、その後何処へ行ったのか引き揚げるまで逢う機会はなかった。

午前一時頃だろうか、うとうととまどろんでいた

私は歩哨の呼び声にはっと我に返へり留置場から出され案内されるまま暗い階段を上りとある一室に入った。

ガランとした十畳間位の一室には小さな机と椅子があり、ソ連軍の中尉と朝鮮人と思われる黒い服を着た通訳が待っていた。私が這入るとくだんの中尉は直ぐ椅子に掛けるよう手振りですすと巻煙草を一本くれ自らマッチをすって火を付けてくれた。わたしは大きく呼吸して煙草を喫うと共に中尉の顔を見詰めた。年齢は二十五、六歳だろうか端正な顔立ちに紅毛碧眼は紛れもなくスラブ系のソ連人で軍服の左胸に勲章を三個吊っている。(つづく)

【編集室より】

この原稿はこの春、長女の坂本富沙子さんから預かったものです。原稿用紙一一五枚と図表数枚です。著者の秋山茂氏の事は、会報六七〇〜六七二号に坂本さんが書いています。

## 報告あれこれ

◆九月、演劇「T・AKIRA」観劇に東京から乱鬼龍さんをはじめ著名な方々が来沢。卯辰山や高松の資料室にも案内させてもらった。後日、資料などをいただき感謝感激です。

◆今年が例年と違うのは「鶴彬の没後八〇年／明治一五〇年」という区切りの年で、戦争や平和に関する話題が多かった。天皇を迎えて盛大に明治一五〇年を祝った安倍の計算はずれ、式典は短時間のセレモニーと

## 11月例会「案内」(毎月第4月曜日)

◆11月26日(月) ◆×切：11月24日(土)

◆課題「味」 3句以内 ◆自由吟：5句以内

◆自選吟、連作、エッセイ、川柳論、「ご意見などもお寄せ下さい。」 ◆会場：金沢市金石(乞乞「連絡」)

◆句報を持参下さい。例会で話し合います。

●投稿 FAX(076) 254-0762 郵送は  
●メールアドレスは下段に。 下段住所へ。

なった。しかし憲法改正を掲げる安倍三選で平和憲法が危なくなった年でもあった。

◆世界が注目したアメリカの中間選挙。下院で与党が過半数を割り、歯止めがかかったものの、識者は二年後のトランプ再選に向けて危険な賭けに出るのを心配する。トランプの賭けは、世界各地に血の雨が降る。このトランプ政権に深く追従する安倍政権は「年金を軍事に回す国づくり」に精出している。これを許すも許さぬも国民の意志ひとつ。

## ◆編集後記

◆紙面構成の変更や差し替えが二転三転となり、時間が経ってしまいました。FAXやメールが使える方は、句の選考に参加できますので、投句の時、アドレスなどを連絡下さい。(編集子)

和川柳社 ////////////// 金沢市金石東2丁目15-30(渡辺方)

電話 FAX : 076-254-0762 PC-mail : kanaanabe@popolo.org

携帯 : 090-9445-1302 携帯 mail : kan-wata@i.softbank.jp

振込先 : 北國銀行中央市場支店 #191 普通 640 「和川柳社」